

店のお客さんには、ものづくりを生業(なりわい)、あるいは趣味にしている方が多い。たとえば、陶芸、染物、洋画、水墨画、ポタニカルアート、パッチワーク、銀工芸など、ものづくりといっても、実にさまざまな表現方法があるものだと、毎年秋になるとあらためて目を開かされる。わたし自身は絵心もないし、手先が無器用なので、おそらく今後も未踏の表現範疇のままだと思う。だから、展示会、即売会などのお知らせをいただくのは、とてもうれしい。まず、そういうお知らせは、店の掲示板に貼ることにしている。

そして、催行場所と時間に定休日があまくあえば、よろこんで足を運ぶことにしている。

先日は、東京青山のギャラリーに、陶芸展をのぞきに行き、その足で上野の都美術館に工芸展を観に行った。斬新なデザインや独特な釉の色、大胆かつ繊細な構図などの作品に、おおいにはげまされ、そのあと上野公園をゆっくり散歩した。人、人、人がいったいどこからこんなに湧き出てくるのだろうか？ まるで、〈ウーリーをさがせ〉の1ページの中に、自分も迷い込んでしまったような気さえた。このひとりひとりに、それぞれの人生があり、それぞれがその日常の凸凹と闘って生きているのだと思うと、卒倒しそうになる。

さらに、そうした衣食住のぐちゃぐちゃをものづくりに昇華させるそのエネルギーこそ、芸術の種と呼ぶものかもしれないと、帰りのバスの中で思った。